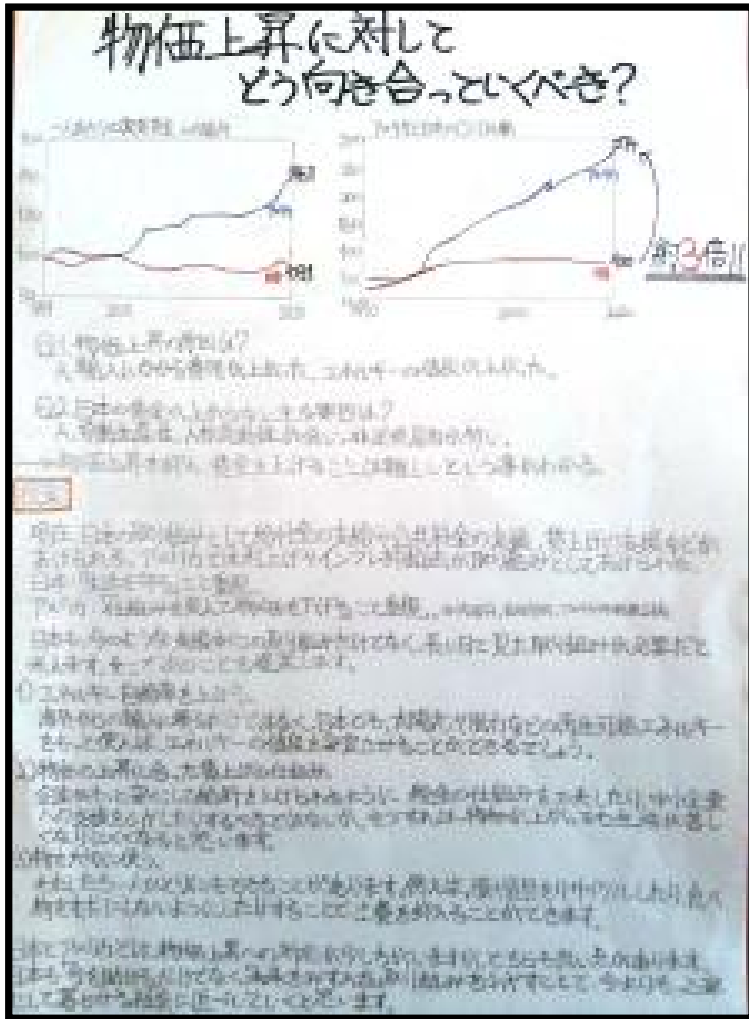


令和7年度「ちばっ子の学び変革」推進事業 研究状況報告書



生徒数	183名
学級数	1年生2クラス 2年生2クラス 3年生2クラス
特別支援学級	2クラス

印西市立船穂中学校

<研究教科：国語科>

← 個別最適で協働的な学びを意識した
単元プロセスで完成した生徒作品

1 研究主題

『知識・技能を活用できる生徒の育成』

～課題解決学習におけるプロセスの工夫を通して～

2 主題設定の理由①

〈全国学力・学習状況調査の質問調査より（全国との比較）〉

質問27：地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか。（肯定的意見）

- ・令和6年度・・・低い傾向
- ・令和7年度・・・低い傾向

質問30：1・2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（肯定的意見）

- ・令和6年度・・・やや低い傾向
- ・令和7年度・・・低い傾向

質問33：学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたり深めたりすることができていますか。（肯定的意見）

- ・令和6年度・・・低い傾向
- ・令和7年度・・・やや高い傾向

2 主題設定の理由② 〈船穂中学校の課題から〉

目指す生徒像は、

「より良い社会にしていくための方法を、得た知識をもとに、自身のアイデンティティを大切にしながら、ひとりで、あるいは協力して、誠実に探究する生徒」である。

しかし、全国学力・学習状況調査(質問30・33)より、主体的に学びに向かう姿勢が不足していると考えられる。また、素直で思いやりのある生徒が多いが、社会貢献意識が低い傾向が見られる。

よって、主体的に考える姿勢と学習したことを社会生活と関連付ける力を養う必要があると考えた。

2 主題設定の理由③

本校の生徒は、学習や生活場面での話し合い活動において、私語になってしまう様子がしばしば見られる。その理由として、思考に深まりがないために自分の意見を述べるだけで話し合いが終わってしまうことや、意見をもてないために発言に至らないことがあげられる。

学習指導要領には、主体的に学習に取り組む態度は「知識・技能」や「思考・判断・表現」と密接に関わることが示されていることから、生徒が主体的に学習するためには、「知識・技能」を活用して「思考・表現・判断」できるようなプロセスの授業にしていく必要があると考えた。

そこで本研究では、単元の中で課題解決に必要な「知識・技能」を習得し、それらを「思考・判断・表現」に活用する場面を設定する。このような学習を積み重ねることにより、「主体的・対話的で深い学び」になっていくと考える。

- ※「生徒の思考に深まりがない」とは、以下のように定義する。
- ・理由、根拠が伴わない
 - ・比較、関連付けが弱い
 - ・他者の意見で考えを更新できない

3 研究の仮説

- (1) 課題解決学習において、あらかじめ解決に必要な知識・技能を習得できる学習過程を設定すれば、指導者は、課題解決に必要な知識・技能は何かということを明確にもつことができ、生徒は知識・技能を働かせて主体的に課題解決ができるであろう。
- (2) 単元で身に付けさせたい力（ゴール）を設定して生徒に示し、学んだことや学び方について振り返りをすれば、身に付けた力を生活の場面で生かせるようになるだろう。

4 研究の方法（授業改善）

〈個別最適で協働的な学びにしていくために単元作成で取り組んでいること〉

- ①単元ゴールのモデルを提示して、見通しがもてるようにする。
- ②生徒がつまずきそうな場面を想定して、ワークシートを作成する。
- ③振り返りをして、次時につなげる。
- ④生徒個々の興味関心が生きる課題にする。

5 検証方法

- 生徒のポスターやワークシート等から、「知識・技能」を活用できているかを見取る。
- 生徒のポスターやワークシート等から、思考が深まっているかを見取る。
- 振り返りから、生徒の思考を見取る。

6 授業実践例①

1 教材名 客観性や信頼性のある記事を書く

2 本单元における言語活動
 社会生活で関心のある事柄について、情報を吟味してポスターを作成する。
 (関連：〔〈思考・判断・表現〉B (1) ア〕)

3 単元の目標

- ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。
 [知識及び技能] (2) イ
- ・「書くこと」において目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にできる。
 [思考力・判断力・表現力等] B (1) ア
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
 [学びに向かう力、人間性等]

4 指導と評価の計画 6時間扱い (本時4/6)

次 時	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準 (観点) [方法]
第一 次	1 ○社会の中で関心のある事柄について問題提起することを知る。 ○情報の信頼性を確認する方法を知る。 2 ○関心のある社会問題について自分の考えを持つ。	○例を提示し、見直しを持たせる。 ○前導者の調べ方を示し、情報の信頼性を確かめる方法を知る。 ・一次情報が二次情報か。 ・二次情報の場合はどうしたらよいか。 ・いくつかの情報を比較する ・情報の基になっているデータを分析する。 ・自分で情報を基に考える。 ・不明な点を曖昧にせず、分からないことは分からないとする。	信頼性の確かめ方を理解して活用している。 (知識・技能) 【ワークシート】
第二 次	3 ○ワークシートを用いて、関心のある事柄についての様々な情報を記入する。 ○様々な情報のうち、信頼性のある情報を精査する。 4 ○複数の人に、自分が問題提起したいことについて話し、質問をしてもらう ○質問を受けて、曖昧な点を調べ直す。	○情報の調べ方をワークシートを見ながら確認し、取り組めない生徒には調べる内容のヒントを出す。 ○話し合いのモデル動画を提示する。 ○できていない生徒も、様々な人の問題提起を聞く。	集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。 (思考・判断・表現) 【ワークシート】
本 時	5 ○情報を精査してポスターにする。	○テーマ・事実、根拠を記入する。 配置は文章で書く。	調べた内容を責任をもって伝えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) 【ポスター】
第三 次	6 ○発表する	4 人グループで発表した後、掲示する。	

6 授業実践例② ～単元のゴールモデルを提示する～

ゴールを設定して提示すると、学習者にとっては、何をどこまで求められているかが分かる。指導者にとっては、生徒が主体的に学習をすすめるにあたって、どのような学習過程が必要で、どこが難しいのかが分かる。

例えば

○多様な考え方がるので、何を事実とするかに

時間がかかる→調べる時間をしっかり確保

○自分が調べて事実としたことは、客観的に見ても

事実か不安になる→他者の意見を聞く時間をとる



6 授業実践例③

～生徒がつまづきそうな場面を想定してワークシートを作成する～

- ・情報を収集した後に、**自分**はその情報から**どう考えるか**が**重要**だと気づき、自分の考えの欄を設けた。

情報を比較して、自分の考えを形成する。様々な情報があるので、何が正しいのか自問しながら複数の資料を読みすすめるが、深く調べていくにつれ、最初に想像した自分の考えとは異なってくる。そのため、他者に相談したいと思う生徒が出てくる。
(探究につながる学び合い)

客観性や信頼性のあるポスターを作ろう

3年 組

番 氏名 ()

①テーマ

デジタルとのかみ合わせの重要性

情報の信頼性を確かめられるようなワークシートにする。

②なぜこのテーマにしたか

・自分にとって価値が低く分かりやすい情報を集めてしまう傾向
・少しづつでも、最終的に、真実がわかる

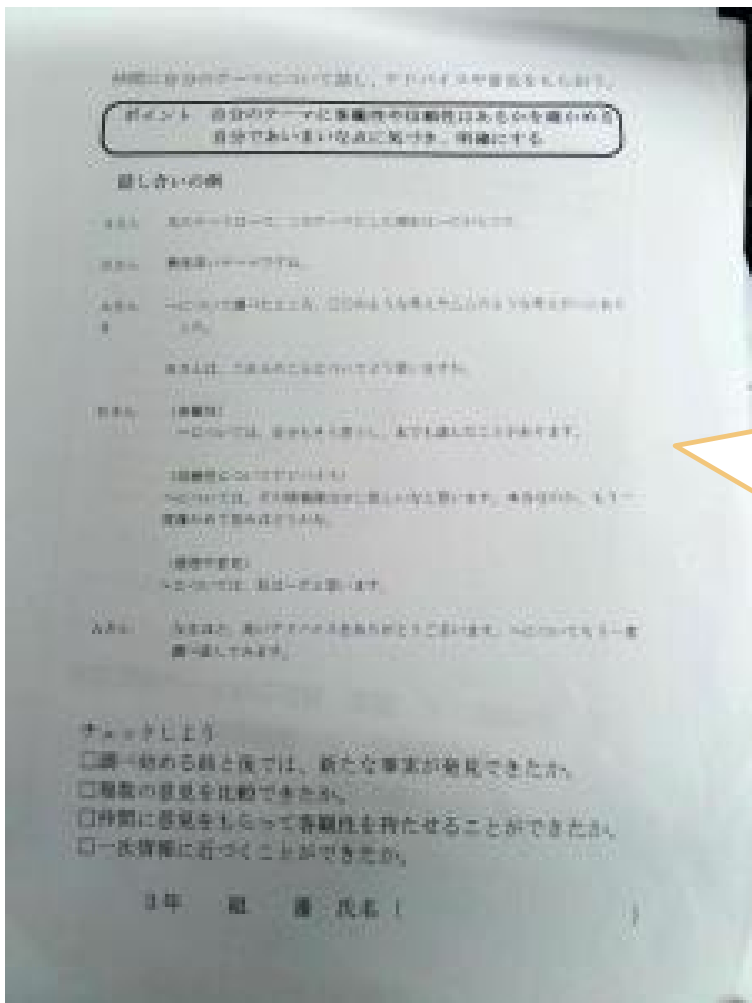
③デジタルの正しい付き合い方について調べたこと

情報	他の考え	自分の考え
調べた資料が内容をよく把握していた [2022スラッシュ、ロードホムカ、デジタルの活用]	英語や和文では馴染はない。(他校)	英語をたくさん読みたいと思えば便利
スマートフォンが長いと電池が下がる [2022スラッシュ、ロードホムカ、デジタルの活用]	→二時間の子どもの学力が落ちる。(他校)	自分で行えることができるのがいい
伊予でも同じような場所にいるための研究を始めている		自分がやるべきこと、得意なことに関心がある
スマホの活用(スマホ制作) 2冊ある [アンダージュハンセン、藤原野郎]	実際に活用をまわしていないなら参考ではない。(他校)	スマホの活用とまでは言えない状況ではあるが、より良い活用を模索している可能性も
スマホを持っていないだけで学力が落ちる [アンダージュハンセン、藤原野郎]		自分自身もそうであると感じる
ノートで記録をとった方が記憶に残る [アンダージュハンセン、藤原野郎]		

④より良い付き合い方

たが目的もなくスマホを閲覧したり、授業の時間外に使っているのは、やめるべきではない。デジタルとのかみ合わせを調べる必要があるが、自分で調べたことがある場合は、調べた人の考え方を参考にすることが出来るという点も重要なポイントである。だから、自分自身が信頼的な調べ方を求めているものを確認しながら調べることも良い。さらに、デジタルを使うことが出来る時代であるから、調べる手段、人と交って調べることを意識して大切にしてほしい。

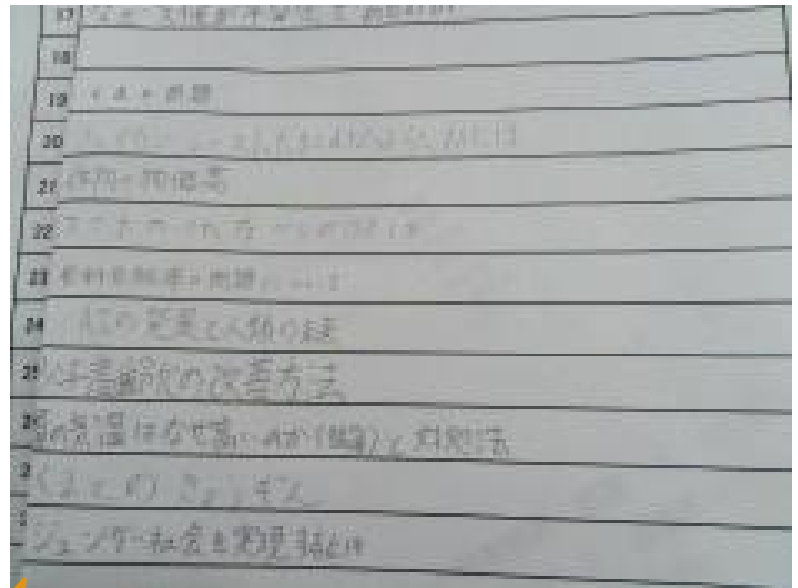
誰に、何をどのように聞けばよいだろうか。 どのように答えればよいだろうか。



話し合い例を配付して、話し合いの目的を明確にする。

モデル動画にしようと思っていたが、中学生は、内容に集中できるように紙面の方が良いと思い、紙で配付した。

実験的に数回挑戦してみたが、まだうまくいっていない。



お互いに何を調べているかがわかるようにする。

6 授業実践例④ ～振り返りをする～

○振り返りの決まり事

- ・ 2文構成で80字以内で書く。
- ・ 2文目の最初に必ず接続詞を使う。

課題解決型の授業の場合、本人にとっては、自分の授業態度や進み具合を振り返る役割、指導者にとっては、生徒がねらいにせまれているかを確認する効果がある。

Kさん

・ 10/7

日本の食料自給率について様々なサイトから事実や考えを収集し、現状や対策方法を調べられた。だから次回は色々なサイトの主張が上手くまとめられたポスターを作りたい。

・ 10/14

一方的な考えを伝えるのではなく、客観性をもたせることが難しかった。しかし、根拠を大切にしながら情報を整理することができた。事実を基に私たちが取り組むべき提案も具体的にまとめられた。

知識・技能を活用している。

Tさん

・ 10/7

今日は友だち同士で自分が調べた情報に客観性や信頼性があるのか、意見を出し合いました。意見を出し合ったことで自分のあいまいだった部分がはっきりしました。

・ 10/14

私が記事を書く時に一番大変だったのは様々なテーマに対する意見をまとめることです。様々な意見を踏まえ、一つの提案にするのは、とても難しかったです。

知識・技能を活用している。

生徒の作品①

〈テーマ〉
障害者や高齢者問題
〜どうしたらより良い環境を用意できるか〜

〈事象〉

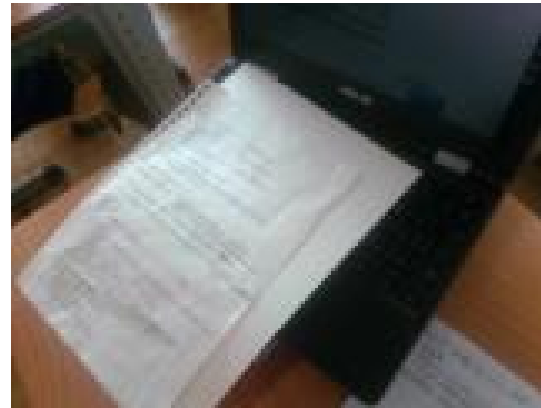
- 介護職員不足と
対応した事業所は
69.1% (調査)
- 職場の人間関係に
問題があり辞職
する人は23.1% (調査)
- 要介護認定者は
218万人→669万人と
3.1倍 (増) (調査)

外国人材の利用
とに多く人を増やす
ために、外国人なども
積極的に呼ぶ

働き方改革
育児や仕事との両立を
可能にするために
ワークシェアリングや、
短時間勤務を導入

賃金を上げる

未来を担う人材獲得



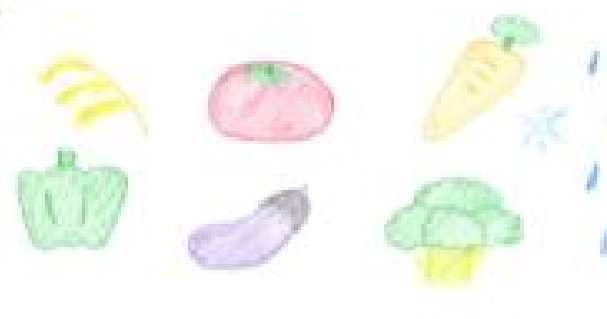
生徒は、ワークシートにまとめる前に、多くの情報を調べていた。

生徒の興味関心が生きる課題になっている。



生徒の作品②

作物の物価高について



<事実>

- 異常気象が起こっている
- 歴代最高気温を記録 **41.8℃**
- 過去最も早い梅雨明け
- 8月前半には大雨
- 干ばつが起こる (雨が降っても蒸発してしまう)
- 生産資源の高騰 (肥料、燃料、人件費...)
- 農地の減少、生産量の減少
- 消費者と生産者の認識のズレ (消費者は安い価格を求め、生産者は高価格を望む)

<提案>

- 作物の価格上昇は必然的なものであると私は考える。そのため価格上昇を嘆くのではなく作物や農家に対して理解を深める、現状を知ることが大切だと思う。
- 主に米の価格については農家にも利益があるよう設定する必要があると思う。
- そして農家に国が支援することで充実した生産量や農地が増加するのではないかと考えた。
- 「**現産野菜**」を取巻くことでフードロス削減につながるのではないかと考えた。
- 食費や食の楽しみ、形が思わたりする野菜。

食料自給率が低いと思っていたが、異なる考え方があってだいぶ戸惑っていた。食糧自給率を上げることのメリットに気付いてまとめた。

悩んで相談しながら時間をかけて完成させた生徒の作品

「作物の価格上昇を必然的なものと捉えて、理解を深め、対策をとろう」とまとめている。

日本の食料自給率を上げるには

<事実>

- 日本の食料自給率は低い (約40%)
- 計算方法をまとめれば、より正確に算出できる (国産品の割合)
- ① 食料自給率
- ② 食料自給率
- ③ 食料自給率
- ④ 食料自給率
- ⑤ 食料自給率
- ⑥ 食料自給率
- ⑦ 食料自給率
- ⑧ 食料自給率
- ⑨ 食料自給率
- ⑩ 食料自給率
- ⑪ 食料自給率
- ⑫ 食料自給率
- ⑬ 食料自給率
- ⑭ 食料自給率
- ⑮ 食料自給率
- ⑯ 食料自給率
- ⑰ 食料自給率
- ⑱ 食料自給率
- ⑲ 食料自給率
- ⑳ 食料自給率
- ㉑ 食料自給率
- ㉒ 食料自給率
- ㉓ 食料自給率
- ㉔ 食料自給率
- ㉕ 食料自給率
- ㉖ 食料自給率
- ㉗ 食料自給率
- ㉘ 食料自給率
- ㉙ 食料自給率
- ㉚ 食料自給率
- ㉛ 食料自給率
- ㉜ 食料自給率
- ㉝ 食料自給率
- ㉞ 食料自給率
- ㉟ 食料自給率
- ㊱ 食料自給率
- ㊲ 食料自給率
- ㊳ 食料自給率
- ㊴ 食料自給率
- ㊵ 食料自給率
- ㊶ 食料自給率
- ㊷ 食料自給率
- ㊸ 食料自給率
- ㊹ 食料自給率
- ㊺ 食料自給率
- ㊻ 食料自給率
- ㊼ 食料自給率
- ㊽ 食料自給率
- ㊾ 食料自給率
- ㊿ 食料自給率

<提案>

- 食料自給率には、いろいろな問題考え方がありますが、私たちはできることから少しずつ取り組んでいく必要があります。
- 例えば、
- ・国産の農作物をうまく消費する (online)
- ・特に自給率の低い国産小麦をつか、自産の物を食べよう!!
- ・地産地消を心がける (online)
- ・日本食は、栄養バランスが良いため、健康に良いとされています。
- ・日本食の魅力に改めて気づき、健康志向に努めることで、食料自給率も上げることができます。 (online)

7 研究の成果と課題

○成果

- ・新しい知識を獲得できると思考が広がるので、どうして？なぜ？という疑問がどんどん出てくる。そこからどうしたら良いか積極的に相談する姿が見られた。
- ・見通しをもった単元計画を作成することにより、生徒が学習する時間を確保できた。
- ・生徒個々の興味関心が生かせるため、意欲的になった。
- ・予想とは異なる考えが生まれ、思考することの醍醐味が味わえた。
- ・ゴールの共有ができていたので、様々なパターンで生徒が自由に設計できた。
- ・目的が明確なので焦点化して生徒個々の力を伸ばせた。
- ・振り返りをすると自分の状態を客観的に見られた。

○課題（次年度の研究の方向性）

- ・どの単元が個別最適で協働的な学習に適しているかを考えて、計画的に授業準備をする。
- ・他者の意見も聞きたくなるような課題解決型授業を行う。